

磐城時報

第九廿夕
福島縣磐城郡平町附屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷 福島縣磐城郡平町附屋町十四
印刷所 福島縣磐城郡平町附屋町十四
發行 福島縣磐城郡平町附屋町十四
電話 一四三三
廣告料 一行十四字 日金五十五銭
訂金 月金一元二角 半年七元 年金十二元
代金 日金五銭 郵費在內
△日刊(日曜、祭日)休刊

豫算が足りない 石城の土木費

橋梁費等は自動車損失の 僅か四分の一しかない

平土木監督所では、豫算から繼續二強を占め、石城郡水産物全体を事業として管内全路線の大改修をなすつゝ、あつたが北好間の一に二割三分強に當り、實に同地に金を拂込み製品を買入れたので、今後或は鯉節の原料として里八町余は此程完成し自動車道として最近の統計によれば、江名で適當なる漁獲物を見るに至つて並行してある石川湯本線延長費價格七十三萬六千圓を計上し、貴は蓋し免れぬ事實が出来るも六里十九町も近日中完成する筈であるが、今年は潮流等の關係のせいで地方民のうける利益は甚大なるものである。平署管内の橋梁數は四百二十六橋、二千六十八間、で總面積五千餘坪で之が管轄費は八千三百圓一坪當り一ヶ年間の經費僅か一錢六厘四毛にしか當らず、ために管轄については少なからず苦心してゐるが、自動車のみによる磨擦損失は一日一坪當り約二錢に上り、一ヶ年間に於ける損失は實に二萬八千四百八十二圓余に達し、管轄費豫算は前記の如く損害高の約四分の一にすぎないため、係官も手古摺つてゐる。

地下採掘反對を 福井技師に言明

二十八日町當局が會見 反對する理由

磐城炭礦が平町の地下採掘を以て町以南を工場地帯に、城山方面願したので、過般仙臺嶺山監督局を住宅地として着々の方針に、から福井技師が來山し調査中のよつて進んでゐる今日であるか、事は既報の通りであるが、その地下採掘は絶対に不可能の状態調査は二十七日を以て終了したので、あり従つて反對をなす所以で、ので二十八日同氏は町當局者と會見し採掘に關して種々協議する處があつたが、平町としては將來の發展その他の点から地下採掘には絶対に反對を唱へてゐる、反對の理由を聞くに昭和七年に石城郡における鯉節の生産高はこれを郡制末期の統計に徴するも年額約七萬貫この價格七十萬圓と注され約百萬圓を概算する石城全郡水産製造物の三分の一事實で都市計劃の前提として南

鯉節の價格上る

石城郡における鯉節の生産高はこれを郡制末期の統計に徴するも年額約七萬貫この價格七十萬圓と注され約百萬圓を概算する石城全郡水産製造物の三分の一事實で都市計劃の前提として南

町村長代表 磐銀訪問

町村長代表は九月六日午前十時、磐城銀行を訪問し、町村長代表者伏見平、

野木内郷、長神谷、中村泉、鈴木小名濱各町村長は廿九日磐城銀行を訪れ、各町村が同銀行に預入れてあつた公金について銀行側の意見を聴取する處があつた。

一日二十萬圓に達する 日銀代理取扱ひ

平銀行では去る七月十一日からその他五萬圓で總計百萬圓を突

平銀で取扱後の成績

日本銀行の代理事務を取扱ふ事になり、八月二十七日迄五日間の取扱ひ状況を聞くに

十日間の取扱ひ状況を聞くに
▲平郵便局 四十四萬七千五百五十圓
▲平稅務署 二十九萬六千六百九十九圓
▲平草元賣捌所 十二萬九千八百六十三圓
▲平營林署 十二萬四千八百八十一圓

船に乗つて 前川課長等視察

小名商港豫算計上のため

小名濱商港の豫算を明年度豫算に計上するため、内務省土木局第一技術課長前川卷一氏視察のため、小名濱町に來る事既報の通りであるが、前川課長は中川縣土木課長、齋藤、山口兩技師と共に二十八日午前小名濱町に來り、小名濱町民の歓迎を受け、船に乗つて築港内を視察し午後一時、縣發列車で歸京した。

落磐で重傷

内郷村大字御厩字上宿居住一、城炭礦長倉坑坑夫大谷平右衛門(四六)は二十七日午前五時半頃、坑内で採炭中落磐のため肋骨を折り、全治五週間の重傷を負ひ、附屬病院で手當中である。

救世軍兩氏出發

軍平少隊書記中山榮太郎、とき、の警引地軍曹の兩氏は救世軍士官學校に入學三十日出發する。

町内運轉禁止

今明兩晩
平町の舊盆は今二十九日(舊十

發起人會

片倉製糸株式會社の發起人會は九月三日平町役場に開き、種々協議する事になつた。

泥田の中

お盆見物の乗客
數名が泥まみれ

自動車轉落

平町新川町片倉自動車部の江名役場前で車体を泥田の中に轉落、平町乗合自動車運轉手原某し平町舊盆見物の乗客數名は泥二回戦は三十日正午から磐城中が操縦し二十九日午前十時頃江まみれとなつたが、車体を少破し、ランドで舉行、終つて平クラブ對磐中の野球試合がある。

明日の試合

磐城中敗る
磐城中学校對オール湯本の野球戦は二十八日午前十時磐城中学校グラウンドで舉行したが、十三對一で湯本軍決勝した。

唐橋候補の 寄附金募集

耶摩郡議員補欠選挙に出馬した政友會唐橋候補は選挙費用

不敬事件夫婦

公判延期
天理研究會の不敬事件に連座して起訴せられた平町四丁目四二番地住居の夫婦の第一回公判は二十八日午前九時から平支部に開催の予定だったが、裁判所の都合で來月十日前後に延期した。尚ほ一時姿を隠してゐた瀧川夫婦は二十七日夜飄然歸平した。

平對湯本 野球試合

平クラブ對オール湯本の野球試合は二十八日午後二時から磐城中学校グラウンドで舉行したが、對三で平クラブ大勝した。戦跡左の如し。

湯	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3
平	1	1	3	4	5	6	7	8	9	10

小沼技手轉任

平土木監督所小沼德彌氏は縣管轄技手を命ぜられ不日赴任の筈。

不敬事件夫婦

公判延期
天理研究會の不敬事件に連座して起訴せられた平町四丁目四二番地住居の夫婦の第一回公判は二十八日午前九時から平支部に開催の予定だったが、裁判所の都合で來月十日前後に延期した。尚ほ一時姿を隠してゐた瀧川夫婦は二十七日夜飄然歸平した。

平對湯本 野球試合

平クラブ對オール湯本の野球試合は二十八日午後二時から磐城中学校グラウンドで舉行したが、對三で平クラブ大勝した。戦跡左の如し。

明日の試合

磐城中敗る
磐城中学校對オール湯本の野球戦は二十八日午前十時磐城中学校グラウンドで舉行したが、十三對一で湯本軍決勝した。

双葉特信

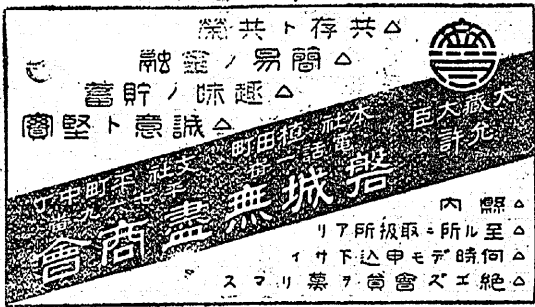
戀に破れ 藝妓自殺

富岡町藝妓屋福村事木村英二方抱藝妓秀奴事鎌田うめ(十九)は浪江町藝妓屋富士本事青田時壽方に出稼ぎ中であつたが五六日

社告

明三十日は舊盆十六日に當り工場員慰安のため休刊仕候

前郷里宮城縣に赴くと稱し家出し郷里には歸らずに同人が元中村町に藝妓をしてゐる頃から馴染を重ねてゐた相馬郡松ヶ江實業補習學校教員竹村益藏(二七)の許に赴き兩人で原釜や松川浦を散歩して村民にはやされてゐる



たが、男が最近余り愛想もなくなつたのと借金があるのを苦にし猫イラズを嘔下し自殺を圖つたが死に切れず苦悶してゐる事が判り浪江町富士本では松ヶ江村まで迎へに行つたが連れ歸る途中浪江町大井病院で加療中二十七日後五時絶命した。

今回左記に移轉致しましたから御通知申上げます

平町字南町七十四番地

(秋原齒科醫院東隣) 福島民報平支局(電話六二二番)

山田 磐 慶

二葉印刷所

平町 字 仲 町 電話 七三四番

ツルヤ洋品店の夏の子供服陳列會
イタツラ着 三十錢より
ポイル服 一圓四十錢より
富士絹服 二圓より
御自由に御覧になられる様店內に陳列
特に御勉め品霜降學生服
壹號 一圓十錢
貳號 一圓
參號 九角
目丁四平 〇四一電

磐城病院改稱

市原病院

内科、小兒科、婦人科、外科一般、花柳病科
平町田町(電話二四四番) 市原 卯太郎
市原 陸太郎
市原 三三男

開業披露

各位の御褒めにより洋食部開業

▼コックは東京から一流の▼原料は特に精選吟味やぶそばと同様多少に不拘御用命を乞ふ

食堂完備...配達迅速

二十二日開業

平町新田町(電話一四一四番) やぶ洋食部

外科新設

内臓外科 一般外科 専門部長 藤本 順

平町新川町

木村婦人科醫院 院長 木村寅次郎 電話一六四番

御心配は御無用です 淋病、消渴、膀胱カタル等の諸症 偉効ある

優秀新薬トリックス 定價二圓、三圓、五圓 御試し下さい

特約店 平町五丁目角 山野邊藥局

磐城セメント株式會社

セメント 壁用材料 コールタール ベンキ塗料 板ガラス 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目 電話三番

優良なる

汽車印定脂油

殺菌防臭の効絶大なり

代理店 關内藥局 平町四丁目(電話四〇番)

耳鼻咽喉科

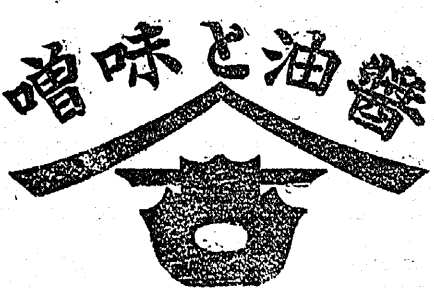
平町仲田町七一

新築移轉 場所合津醫院 電話五五九番

外科 花柳病科 專門

平町六丁目橋際

木村外科醫院 電話三〇九番



東京支店

電話下谷五七二三番 振替東京六八三三二番

山崎合名會社

電話(營業部専用)一〇七番 (一般用)二七五番 振替東京一九七五五番

上野車坂四三